様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成　21 年　5　月　15　日現在

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2005～2008
課題番号：17402028
研究課題名（和文）　北京市における歴史伝統保存型の商業街区開発にみる２類型

研究課題名（英文）　Two Patterns of Cultural Commercial Development in Urban China

研究代表者
田中　道雄（TANAKA MICHIO）
大阪学院大学・経営学部・教授
研究者番号：10248263

研究成果の概要：
本研究においては、経済的発展を続ける中国の首都北京市を対象として、そのなかでも特に什刹海地域と大柵欄地域という２つの著名な歴史伝統保存型の商業観光地を取り上げ、近年の文化的色彩の濃い商業街区開発について考察している。これまで中国の都市開発は現代化という目的を達成するために、かけがえのない多くの文化資源を都市開発の名のもとに、いとも簡単に撤去してきた。しかし、経済の発展は徐々に自らの持つ文化的資源への再注目となって表れている。本研究はこれらの点を現地での消費者調査や経営者調査を通して明らかにしようとしている。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2005 年度	3,100,000	930,000	4,030,000
2006 年度	2,900,000	870,000	3,770,000
2007 年度	2,900,000	870,000	3,770,000
2008 年度	2,500,000	750,000	3,250,000
年度			
総　計	11,400,000	3,420,000	14,820,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：経営学・商学
キーワード：什刹海、大柵欄、歴史伝統保存型、来街者調査、胡同、都市流通、商業観光地

１．研究開始当初の背景

研究代表者はこれまでも現代中国の都市流通について、継続的に調査を続けてきた。本研究開始時において、2008 年の北京オリンピックをめざして変化する北京市のさまざまな動きのなかに、これまでのように、いたずらな巨大開発を通して、規模のみを追い求めるのではなく、貴重な文化資源を保護しながら、徐々に都市の開発を進めていこうとする変化の兆のあることが感じられた。そして、こうした動きの背景には、近年における中国の驚異的な経済発展とそれに伴う中国国民の潜在的な意識に変化のあることが予測された。

２．研究の目的

当初の研究目的では、2008 年夏に実施される北京オリンピックという大変化の直前時期である2005年から2008年という期間を設定し、その間の北京市の歴史伝統保存型の都市商業開発の動向を逐次的に把握しようとした。

同時に、こうした北京市の動きは、単に北京市だけで生起しているのではなく、中国経済の勃興と深く関連していると考え、他の地域においても同様の動きがあることを予測した。

それゆえ、本研究においては、北京市における什刹海と大栅欄の２地域での具体的な調査と並行して、中国国内における同様の動きに対して現地調査を行い、もって中国における歴史伝統保存型の都市商業開発が全国的な広がりのなかで進められていることを明らかにしようと企図した。

３．研究の方法

今次の研究においては、中国の最高学府として著名な北京市清華大学人文社会科学院の協力を得、北京市北城地域の中核的都市観光地である什刹海地域ならびに北京市南城地域で古くから商業中心地であった大栅欄地域での来街者調査、経営者調査等を実施し、これまで入手が困難であった多くの一次資料の獲得に努めた。

中国においては、法令により外国人の中国国内での自由な調査は禁じられており、一次資料を入手しようと思えば、こうした現地大学機関との提携による資料入手が最も確実である。

(1)北京市における来街者調査や経営者意識調査の各種調査

まず、北京の街の都市開発動向の概要を眺めることで、中国都市流通の継続的な調査を進めるとともに、今回初めて現地での来街者調査や経営者調査を実施した。

調査は、2005 年度の清華大学との最初の打ち合わせならびに什刹海研究会、大栅欄開発関係機関を訪問しての多大な資料収集に始まり、2006 年度は主として、什刹海地域の来街者調査、2007 年度は同経営者意識調査、2008 年度は新装なった大栅欄商店街の来街者調査と現地実態視察調査を行った。

その間、中国政府関係機関への毎年の訪問を通して、市販されていない各種資料の入手に努め、その詳細な建築関係構想の実態を確認した。

こうした調査を通して中国都市部における多くの一次資料を獲得するとともに、関係機関へのヒアリング、調査実施担当者である清華大学大学院生等の生の声を収集し、もって、さまざまな特質や課題を明らかにしようとした。

(2)中国国内における歴史伝統保存型開発の現地調査

また、歴史伝統保存型商業開発の先進的な具体的事例として、3 つの都市を訪問し、その実態を知るとともにその背景の把握に努めた。

この 3 都市とは、杭州の清河坊商店街、ハルビンの中央大街商店街、アモイの中山路商店街である。これら、現地視察を 2006 年度から 2008 年度にわたって逐次、実施し、現在、中国各地で同様の歴史伝統保存型の都市商業開発ならびに整備が進められていることを現地において調査、その背景について探った。

４．研究成果

(1)研究の主な成果

まずなんといっても、外国人には実施できない中国公道上で無差別に来街者調査を前後２回にわたり実施したことである。それらの結果は、これまで大学紀要ならびに学会雑誌に順次、発表してきた。

かつまたそれに対応して、経営者へのヒアリング調査等、他の調査をも行ったことである。

その結果、これまで中国側の公刊資料によってのみ考察してきた中国都市流通の内容について、今回の調査結果によって、これまで以上のかなり深層にまで接近出来たことである。

とりわけ、歴史伝統保存型の都市商業開発の背景には、明らかに、中国経済の飛躍的な進展が関係しているように思われる。

当然のことながら、こうした側面に光があたるためには、政府関係者のみに留まらず、知識層やマスコミ等の動向変化がある。

それは先行する王府井商店街や西単商店街の巨大開発が、その規模の大きさによって経済的な側面では投資効果を高めたのに対し、その変化の大きさが北京らしさの欠如となって、多くの失望をも招いたからである。

とりわけ、経済的な繁栄とその逆説的な中国らしさへの潜在的要望は、これまで簡単に打ち壊してきた多くの文化的資源への再注目となって表れてきたのである。

それは特に、什刹海地域や大栅欄地域の周辺に連なる胡同や四合院の存続との関係にみられる。

北京市内の多くの地域で、こうした胡同や四合院などの伝統的な住居は破壊されてきた。それは現代化が進む中国において、各地で見られてきた現象であった。

しかし、こうした動きも北京オリンピックや経済の発展によって、中国国民の意識のなかで大きな変化を起こしてきたように思われる。

もとより、それはまさに中国国民の自信と関連していよう。こうした自信の回復が、それまでの巨大開発や急速な開発とは別の視点である歴史伝統保存型の都市商業開発へとつながっているのではなかろうか。

ただ、そうした中国国民の自信の回復は、まだまだ真の意味での余裕に裏付けられたものというより、相対的比較のなかでの、自信に留まっている。

それゆえ、こうした発展期の自信は時に過信となって、排外的な動きにつながる可能性を持つ恐れも強い。

中国においても、王軍著「北京再造」が広く支持されたように、中国らしさを追究しようとする動きは一過性のものではなく、大きな潮流となりつつある。

そのなかでの歴史伝統保存型都市商業開発の動きは、まさに多くの人々の支持を得つつある。ただ、注意しなければならないことは、その再造の際に、安易に形を復元するだけにとどまり、真の意味でかつての文化的水準に近づけようとする努力がまだまだ足りないことである。

それゆえ、こうした再造の多くが、模倣的なものにとどまっているのが実態である。今後、こうした点をどのように克服していくか、中国の歴史伝統保存型都市開発の真価が問われることとなろう。

(2)得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

中国都市流通研究は、未だその研究は未知の部分が多く、また変化も大きいためなかなか接近しにくい分野である。

筆者はかつてより、『中国の都市流通』(税務経理協会、2004 年刊)、田中道雄他編『現代中国の流通と社会』(ミネルヴァ書房、2005 年刊)等によってその動向を追究してきたが、本研究ではそれをさらに深耕し、文化的な側面にまで領域を広げてきた。そこには、商業の発展を一段と高めるためには、こうした文化的な充実が大きな鍵を握っていると考えるからである。その一環として、われわれは田中道雄他著『文化としての流通』(同文舘出版、2007 年刊)をすでに上梓している。その意味で、こうした文化的に都市流通をとらえる見方は関係方面に対しては、大きなインパクトを持つものと考えている。

中国においても、こうした分野の研究はまだまだ少ない。今回、われわれのこうした観点は、これまでも順次、関係学会誌に発表してきたが、今後ともこうした努力を続けていきたい。ちなみに、既に本研究報告書がまとめられている。

(3)今後の展望

本研究のような分野は、どこかの一時点で目的が達成されるということはなく、常に新たな視点を加えながら、問題に継続的に接近することが求められている。かつ、中国社会の成熟化の進行とともに、それがどのように変化していくのか、まことに興味は尽きない。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　　6 件）

1.田中道雄「中国都市商業開発の深層」『関西実践経営』査読無、第 37 号、2009 年掲載決定。

2.李為「ブール代数分析による国際比較研究－地位評価構造の分析」査読有、『京都マネジメント・レビュー』第 13 号、2008 年、pp.55--72

3.田中道雄「煙袋斜街商業街の動向―什刹海地域における商業ゾーン」『関西実践経営』査読無、第 36 号、2008 年、pp.17--27

4.田中道雄「什刹海地域の立地と歴史的変遷」『関西実践経営』査読無、第 35 号、2008 年 pp.1—12

5.田中道雄「現代中国の都市商業観光地の動向―北京市什刹海来街者調査分析を通して」『商経学叢』査読無、第 54 巻第 3 号、2008 年、pp.11-29

6.栗田真樹「消費価値観の日中比較」『流通科学大学論集、人間・社会・自然編』査読無、第 18 巻第 1 号、2005 年、pp.63--74

〔学会発表〕（計　1　件）

1.李為「質的分析について　－中国の都市評価を中心に」第 47 回実践経営学会関西支部会、2006 年 6 月 24 日、甲子園大学。

〔図書〕（計　2　件）

1. 李為・白石善章・田中道雄『文化としての流通』、同文館出版、2007 年

2.田中道雄・鄭杭生・栗田真樹・李強編著『現代中国の流通と社会』ミネルヴァ書房、2005 年、(田中道雄 pp.1--20)、(栗田真樹 pp.37--56)、(李為 107--130)

６．研究組織
(1)研究代表者
田中　道雄　(TANAKA MICHIO)
大阪学院大学・経営学部・教授
研究者番号：10248263

(2)研究分担者

(3)連携研究者
栗田　真樹　(KURITA MAKI)
流通科学大学・サービス産業学部・教授
研究者番号：10258262

李　為（LEE WEI）
京都産業大学・経営学部・准教授
研究者番号：00454471